

5 - 1 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動

(1981年7月～1981年12月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (July, 1981 - December, 1981)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science
Kyoto University

1) 鳥取微小地震観測所の結果 (第1図) :

この期間は山陰海岸沿いの地震活動が比較的活発であり、特に倉吉市附近は、9月23日M3.9の地震を始めとする活動が目立つ。米子南方の日野町周辺の活動は前期から続いているものである。山崎断層系は静穏であったが、断層北西端の智頭町附近でM3.2の地震が起った。その他、丹後半島一帯の活動がやゝ活発であった。

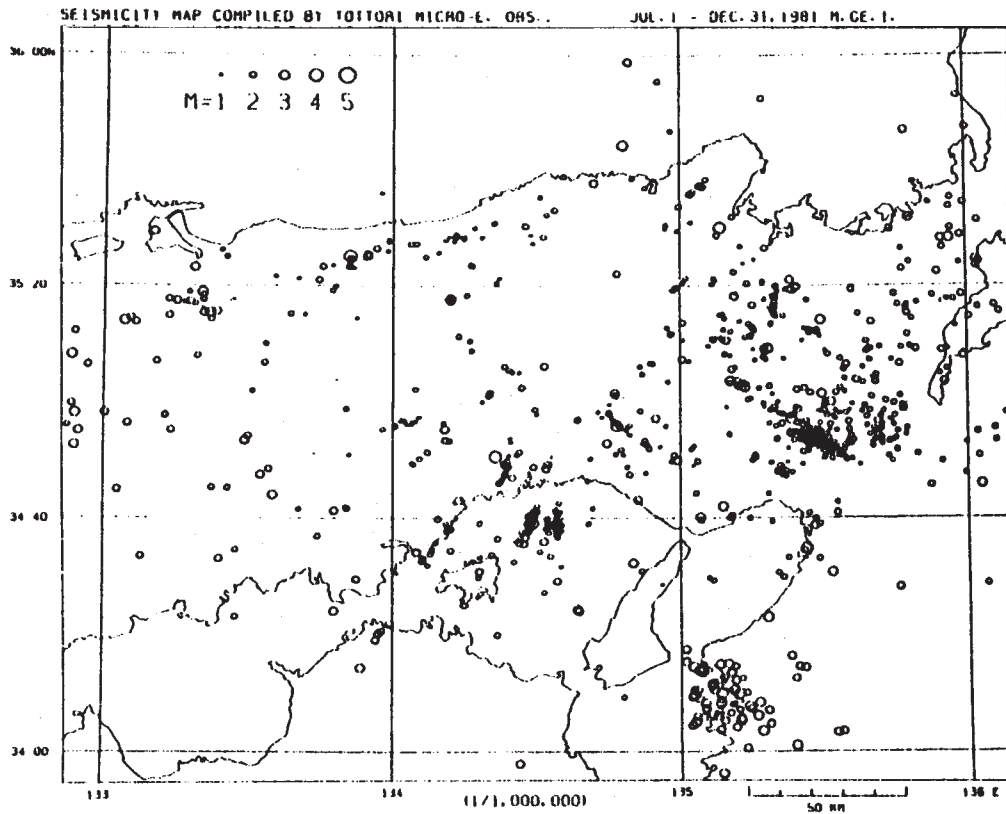
2) 阿武山地震観測所の結果 (第2図) :

この期間、全般的に観測網周辺の地震活動は低調で、阿武山での有感地震は8月29日22時03分の震度Iのものだけであった。また、阿武山-妙見附近のサイスミシティも通常と比較して多少低いように思われる。

なお、和知観測点は、1981年5月19日から本観測を開始したが、同年7月19日からグラフィックディスプレイによる読取を開始した。従って、それ以後の震源決定には和知での観測が加えられている。

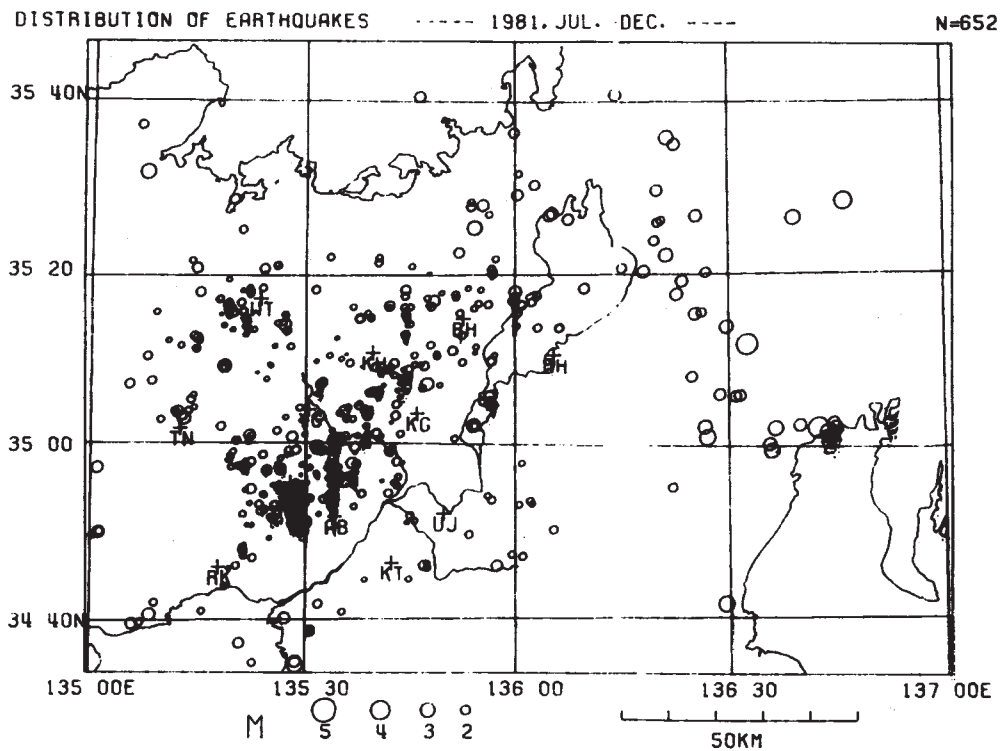
3) 北陸微小地震観測所の結果 (第3図) :

この期間の全体の活動は、従来と大差ない。岐阜県中部地震(1969年9月9日、M6.6)の余震域にやゝ大きい地震が多発した。小松市沖の地震は、現地で人により有感であった。福井地震断層に沿う活動は、あまり明瞭な線状配列になっていない。その他、越前岬から若狭湾内にかけてやゝ大きい地震が起っている。



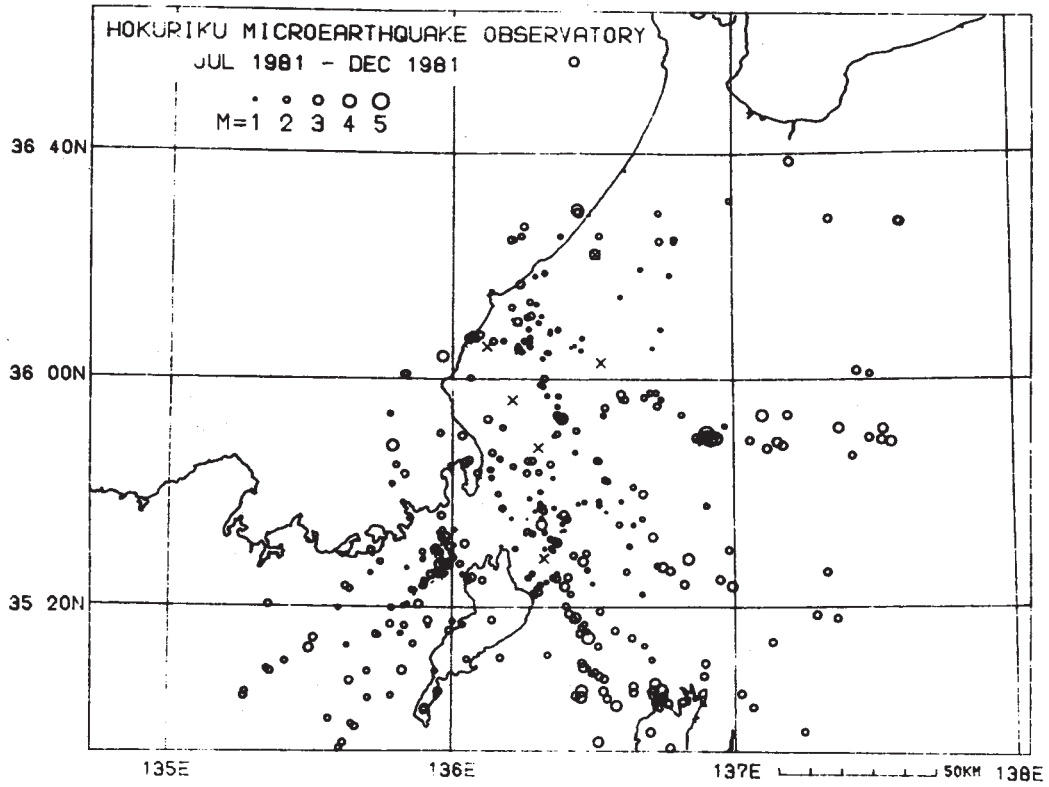
第1図 鳥取微小地震観測所による震央分布図(1981年7月~1981年12月)

Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (July, 1981 - December, 1981).



第2図 阿武山地震観測所による震央分布図(1981年7月~1981年12月)

Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (July, 1981 - December, 1981).



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1981年7月～1981年12月）
Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (July, 1981 - December, 1981).